国際関係論研究におけるデータアーカイブの役割

芝井　清久　　データ科学研究系　特任助教

■国際調査データによる国際社会の文化的多様性の研究

文化的背景の異なる国家のデータを集め、その特徴と変化を明らかにすることを目指す。
国際問題にともなう国際社会の急激な変化を追い、実情をつかむことが社会秩序のために、多様かつ継続的なデータの収集が非常に重要になっている。

■ 文化的背景によって異なる傾向の存在の例

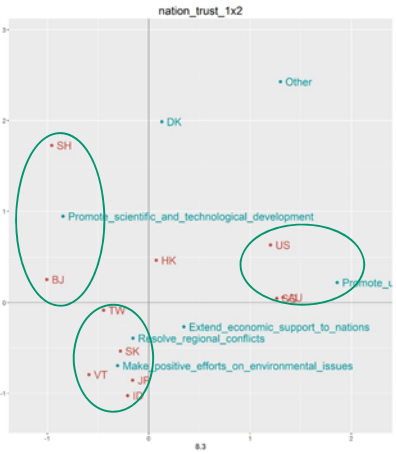
国際貢献で重視すること（APVS2010-14の問49）

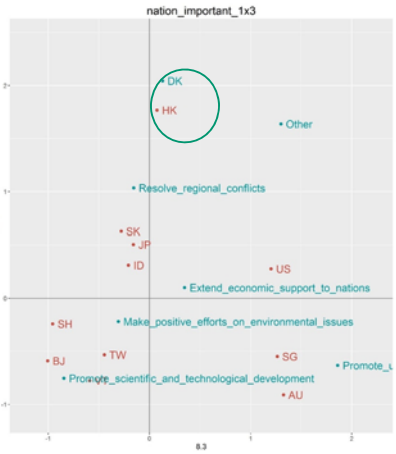
「科学技術の発展」と北京、上海が近い。**【共産主義中国の二大都市】**

「異文化・宗教間の相互理解」とアメリカ、シンガポール、オーストラリアが近い。**【移民の多い国家が集中】**

「地域紛争の解決」「環境問題に取り組む」と台湾、韓国、ベトナム、日本、インドが近い。**【インド以外は単一民族に近い国家】**

香港のみ3軸で見るとDKと近い。





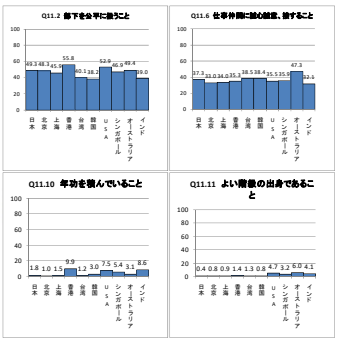
■ 文化の違いに関わらず共通して存在する価値観の例

職場の良きリーダーはどんな資質を持っているべきか（PRVS2004－08の問11）

「部下を公平に扱うこと」は全ての地域でTop3入り。

「仕事仲間に誠心誠意、接すること 」は全ての地域で3～4割の回答。

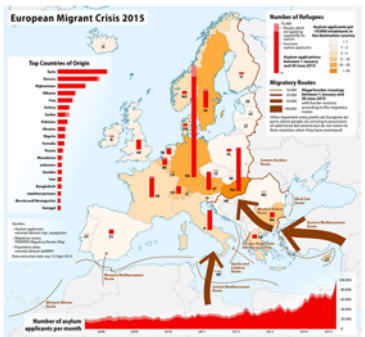
「年功を積んでいること」「よい階級の出身であること」は、ほぼ全ての地域でWorst 1, 2位。



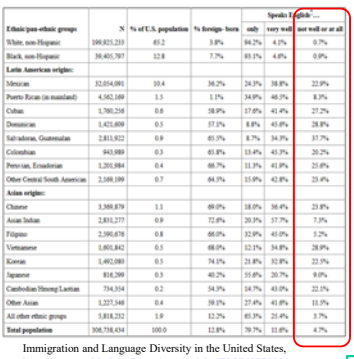
	1位		2位		3位	
日本	技術的に優れていること	76.6	部下を公平に扱うこと	49.3	判断力が優れていること	45.1
北京	技術的に優れていること	54.7	部下を公平に扱うこと	48.3	部下に利益をもたらすこと	36.6
上海	技術的に優れていること	62.8	部下を公平に扱うこと	45.9	仕事仲間に誠心誠意、接すること	34.0
香港	部下を公平に扱うこと	55.8	判断力が優れていること	42.5	仕事仲間に誠心誠意、接すること	35.3
台湾	部下を公平に扱うこと	40.1	部下に利益をもたらすこと	38.5	仕事仲間に誠心誠意、接すること	38.5
韓国	部下に尊敬され、好かれていること	55.0	仕事仲間に誠心誠意、接すること	38.4	部下を公平に扱うこと	38.2
USA	判断力が優れていること	62.0	部下を公平に扱うこと	52.9	真剣に仕事に取り組むこと	43.7
シンガポール	部下を公平に扱うこと	46.9	判断力が優れていること	43.2	人間関係がよい、顔が広いこと	38.7
オーストラリア	判断力が優れていること	61.1	部下を公平に扱うこと	49.4	仕事仲間に誠心誠意、接すること	47.3
インド	真剣に仕事に取り組むこと	41.1	部下を公平に扱うこと	39.0	技術的に優れていること	35.6

芝井清久・吉野諒三. (2013).「職業・労働観に現れる価値観の多様性と普遍性」『データ分析の理論と応用』3 (1): 22-26.

■空間的なつながりと時間的なつながりから類似点と相違点が見つかることが多い。時間の経過と社会の変化によって文化的なつながりが強まったり弱まったりする変動性の存在。
■現代の国際社会では移民・難民によって多くの国家で変化が起きており、近い将来にこれまでの類似点と相違点にも変化が起きる可能性がある。



Ohio State University, http://origins.osu.edu/article/3807/maps



Size, immigrant share, and English proficiency of U.S. ethnic groups, 2008-10

Ethnic/pan-ethnic groups	N	% of U.S. population	% foreign- born	Speaks English: only	very well	not well or at all
White, non-Hispanic	199,925,233	65.2	3.8%	94.2%	4.1%	0.7%
Black, non-Hispanic	39,405,797	12.8	7.7%	93.1%	4.6%	0.9%
Latin American origins:						
Mexican	32,014,091	10.4	38.2%	24.3%	38.8%	22.9%
Puerto Rican (in mainland)	4,562,169	1.5	1.1%	34.9%	46.3%	8.3%
Cuban	1,760,258	0.6	58.9%	17.6%	41.4%	27.2%
Dominican	1,421,809	0.5	57.1%	8.8%	43.6%	28.8%
Salvadoran, Guatemalan	2,811,922	0.9	65.3%	8.7%	34.3%	37.7%
Colombian	943,989	0.3	65.8%	13.4%	45.3%	20.2%
Peruvian, Ecuadorian	1,201,984	0.4	66.7%	11.3%	41.9%	25.6%
Other Central/South American	2,169,199	0.7	64.3%	13.9%	42.8%	23.4%
Asian origins:						
Chinese	3,369,879	1.1	69.0%	18.0%	36.4%	23.8%
Asian Indian	2,831,277	0.9	72.8%	20.3%	57.7%	7.3%
Filipino	2,590,678	0.8	66.0%	32.9%	43.0%	5.2%
Vietnamese	1,801,842	0.5	68.0%	12.1%	34.8%	28.9%
Korean	1,402,983	0.5	74.1%	21.8%	52.8%	22.9%
Japanese	816,280	0.3	40.2%	55.8%	20.7%	9.0%
Cambodian/Hmong/Laotian	734,314	0.2	54.3%	14.7%	43.0%	22.0%
Other Asian	1,227,548	0.4	59.1%	27.4%	41.8%	11.5%
All other ethnic groups	1,818,232	1.9	12.2%	65.3%	25.4%	3.7%
Total population	306,738,434	100.0	12.8%	79.7%	11.6%	4.7%

Immigration and Language Diversity in the United States, https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4092008/

■ 意識の国際比較調査の経歴　http://www.ism.ac.jp/~yoshino/index.html

1953 – present Japanese National Character Survey　日本人の国民性

Surveys on Japanese Americans of Hawaii & of the West Coast, and Japanese Brazilian

1971　**Honolulu Residents** with Japanese ancestry　**ハワイ日系人調査**
1978　Honolulu Residents, Americans in the Mainland
1983　Honolulu Residents
1988　Honolulu Residents
1991　Japanese Brazilians (JB) in Brazil **ブラジル日系人調査**
1998　Japanese ancestry Americans in **the West coast of U.S.A.米国西海岸日系人調査**
1999　Japanese Americans in Hawaii

1987-93　Seven Country Survey (Japan, USA, & 5 European Nations)日米欧7ヶ国比較

1987　Britain, Germany & France
1988　Americans in the mainland of U.S.A, the Japanese in Japan
1992　Italy
1993　The Netherlands

2002-05　East Asia Values Survey (EAVS)　東アジア価値観国際比較
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea & Singapore)

2004-09　Pacific-Rim Values Survey (PRVS)　環太平洋価値観国際比較
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)

2010-14　Asia-Pacific Values Survey (APVS)　アジア・太平洋価値観国際比較
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia, India & Vietnam.)

調査データをさらなる多様性に富んだものに

- 移民・難民の多くは非キリスト教文化圏の途上国からキリスト教文化圏の先進国に流入している。
  - データを取りやすいのは基本的に民主主義の発展した国家であり、どの国際調査でも対象地域はそちらに偏らざるを得ないのが現状。
  - 中東やアフリカ、中南米など調査データが豊富とはいえない地域からの人々の流入が先進国の社会にもたらす影響を分析するためには必要になる。

調査対象地域を拡大して多様なデータを収集することの大切さ

国際社会で起こっている急激な変化に対応するために

- 移民・難民の流入は収まる気配を見せない。
- だが移民・難民の多くは<u>その国の文化に同化する姿勢を見せない</u>。
- アメリカへの移民も英語を話せない人が多い。将来的には英語が多数派では無くなる見通し。

⇓

<u>独自文化を持つ欧米諸国でも近い将来国民性に変化が起こり始める可能性が捨てきれない</u>

継続調査によって時系列データを集めることの大切さ